



春季特別展

縄文！

岩手 10000 年のたび

平成26年

5月3日（土祝）－ 6月29日（日）

【開館時間】午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】毎週月曜日（ただし5月5日は開館）、5月7日（水）

【入館料】一般600円、65歳以上・高大生400円

（中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方とその介助者1名様は無料／

20名様以上の団体は2割引）

【主催】大阪府立弥生文化博物館

【後援】泉大津市・泉大津市教育委員会・和泉市・和泉市教育委員会・朝日新聞社



岩手の縄文時代ってすごい



縄文！ 岩手 10000 年のたび

縄文といえば東北！ 縄文時代の東北が知りたい！ 岩手県出土資料を通じて、10000 年をタイムトラベル！ 土器、土偶、アクセサリー、どれをとっても息を呑むばかりに美しく、ユニークなものばかり。お気に入りをお土産にたくさんみつけてください。本格化した震災復興にともなう発掘には大阪も協力しています。急ピッチで進む調査についても紹介します。

第1章 定住に向かって：縄文時代草創期～早期

みちのくの森の縄文文化。自然のめぐみをもとに、安定したムラがつくれます。いよいよ縄文時代のスタートです。

第2章 文化のフロントゾーン：縄文時代前期～中期

縄文社会は発展をとげ、大きなムラがいくつもつくれます。地域的な文化の境界がちょうど岩手を走ります。ここは北と南の文化が交錯するフロントゾーンだったのです。

第3章 縄文人のイメージとかたち：縄文時代後期

社会が大きく変化した縄文時代後期。有名なストーンサークルがつくれるのもこの時期です。ユニークな土器や土製品に込められた想いは。

第4章 よみがえる縄文アート：縄文時代晩期

丹精込めてつくられた土器や土偶はまさにアート。しかし、複雑な社会をうつつ出す考古学的な資料でもあるのです。

第5章 革新と伝統：弥生時代

東北縄文人の「弥生化経験」。遺跡から読み取れる大きな変化と、息づく縄文の伝統はどのようなものだったのでしょうか。

■考古学セミナー（講演会）

- 第1回 5月17日（土） 小林達雄氏（國學院大学 名誉教授）
「縄文の世界」
- 第2回 5月31日（土） 高木 晃氏（(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 主任文化財専門員）
「岩手の縄文遺跡を掘って考えた」
- 第3回 6月14日（土） 熊谷常正氏（盛岡大学文学部 教授）
「縄文時代後期の遺跡と社会」
- 第4回 6月28日（土） 三好孝一（(公財)大阪府文化財センター 課長補佐）・
廣瀬時習（大阪府立近つ飛鳥博物館 総括学芸員）
「岩手県での発掘調査－震災復興のために－」

時間：午後2時から午後4時

参加費：無料（ただし入館料が必要です）

定員：各回とも170名（当日先着順 開館時より整理券配布・開演30分前から受付）

■学芸員による展示解説

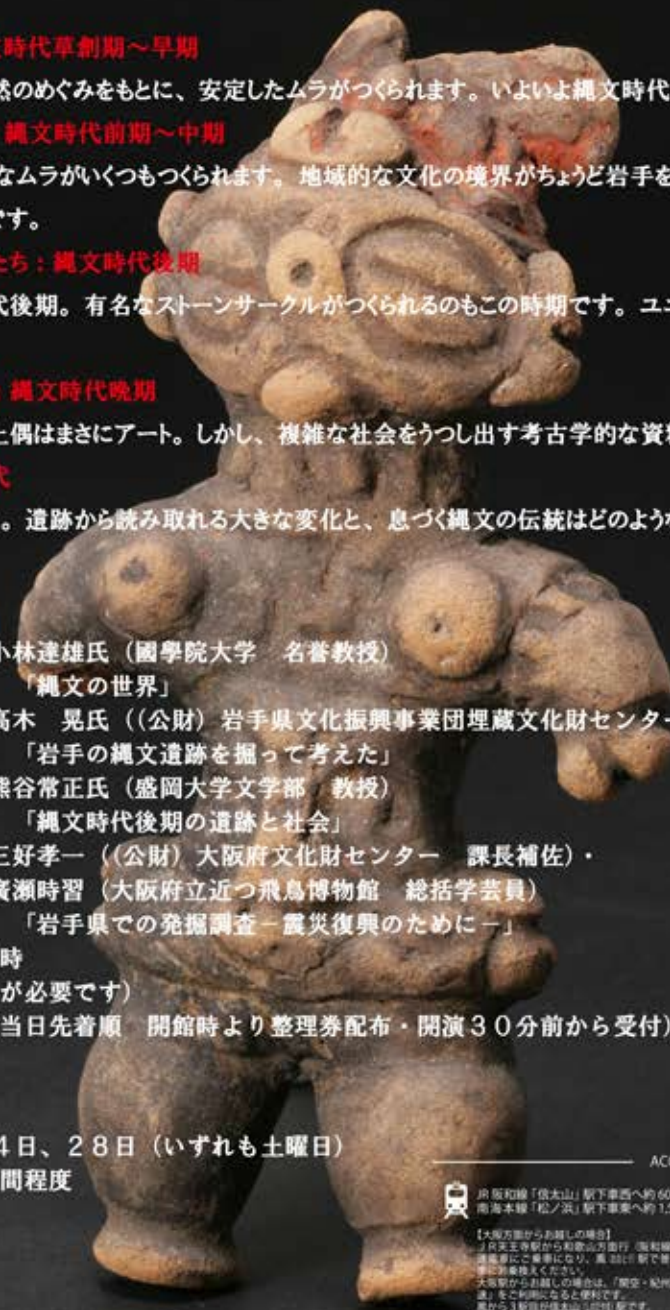
5月17日、31日、6月14日、28日（いずれも土曜日）

時間：午前11時から1時間程度

表写真（左上から時計回りに）：大芦I遺跡土偶、大橋遺跡壺、長倉I遺跡壺・石器、塩ヶ森I遺跡土偶、大日向II遺跡深鉢、長倉I遺跡注口土器・上野場3遺跡香炉形土器（右）、君成田IV遺跡香炉形土器（左）

裏写真：大芦I遺跡土偶

所蔵：岩手県教育委員会 撮影：齊藤 宙



大阪府立弥生文化博物館
Museum of Yayoi Culture

〒594-0083 大阪府和泉市池上町 4-8-27

TEL 0725-46-2162 http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/